

4) *P. multibracteata* はオオバノトンボソウの葉数の多い1型であった。5) *P. roseotincta* はハクサンチドリ属の種とする意見もあり、所属が不明確であった。花の解剖から2個の粘着体が裸出している事を確認した。この特徴はこの種がツレサギソウ属である事を示している。6) *P. subulifera* は、根生状に出る2枚の葉、鎌形の花弁、広い葯隔などの特徴が *P. chlorantha* と一致しており、両者は同種と考えられる。

○シロバナアサマリンドウ (豊国秀夫) Hideo TOYOKUNI: A white-flowered form of *Gentiana sikokiana* Maxim. found in Ehime Pref.

1982年10月3日に愛媛県新居浜市銅山越で、新居浜西高等学校の伊藤隆之氏がアサマリンドウの白花品を採集された。未だ命名がないので、ここに記載・発表する。なお、仲介の労をとられた国立科学博物館の中田政司氏に感謝申し上げる。

***Gentiana sikokiana* Maxim. forma *albiflora* Toyokuni, f. nov.**

Corolla alba et tubus corollae in parte inferiori dilute purpureo-punctulatus; cetera ut in f. *sikokiana*.

Nom. Jap. Shirobana-asamarindô (T. Itoh, nov.)

Hab. Pref. Ehime: Dôzangoe, Niihama (T. Itoh, Oct. 3, 1982—holotypus in TNS). (信州大学 教養部生物学教室)

□小林義雄: 日本中国 菌類歴史と民俗学 (Kobayasi, Y.: Historical and ethnobotanical mycology) 16+162+254 pp. 4 pls. 1983. 広川書店, 東京. ¥25,000. 本書はこの方面の出版物としてはかつてなかったものである点、先ず著者と出版者との敬意と謝意を表す。本書は3部に分かれている。第一部は東洋の古典菌誌と図譜で79の菌誌或は菌譜を列举し、これに近代的な解説を附記したものである。日本のものが存外あることが興味を惹く。第2部は菌類民俗学・歴史資料で、ほとんど著者自ら採集した菌について古今東西の文献をさぐり、各地に散らばる資料・伝説・民俗を渉猟して、氏一流の博い視野から眺め且つは論じた珠玉篇である。その数は42件に及び、その半ばは日本菌学会報に1977-1981年に亘つて連載されたのを転載したものである。第三部は中国と日本の稀観書10篇を選んで複製したもので、中にはいまだに出版されないものもあり、稀な本を随時看ることができるとはまことに有難い。列举すると林息園: 吳蕈譜 (1703), 太上靈宝芝草品 (15世紀), 松岡玄達: 怡顔齋菌品 (1761), 曾占春: 皇和菌譜 (1791), 陳仁玉: 菌譜 (1245), 潘之恒: 広菌譜 (1596-1644), 佐藤成裕: 温斎齋菌譜 (1796), 坂本浩然: 菌譜 (1834), 渋江長伯: 蕈譜 (1800頃), 曾占春: 成形図説 卷31 (1831), の10種である。 (前川文夫)